

【はじめに】欧米の家庭で厨芥がどのように処理されているか事例調査を行い日本での同様の調査結果と比較することで日本の厨芥処理に求められる特徴と問題点を明らかにすることを目的とした。【調査の概要】厨芥の処理と搬出の方法（デイスポージャーの使用の有無、自家処理の有無など）について尋ね、ごみの分類と捨て方、ごみ容器の揃え方、容量等図示してもらった。調査表は90年8月～10月に発送し、回答を得られたものの内から主にアメリカ8軒、イギリス5軒、カナダ7軒、ドイツ2軒を抽出した。

等図示してもらった。調査表は90年8月～10月に発送し、回答を得られたものの内から主にアメリカ8軒、イギリス5軒、カナダ7軒、ドイツ2軒を抽出した。

【結果と考察】①厨芥の処理方法：アメリカは8軒のうち6軒がデイスポージャーを使用しており、イギリスはデイスポージャーを使用しているのは一軒のみだったが、5軒総てがコンポスト化などの自家処理を行っていた。生ごみは自宅で処理するという意識がまだ健在である。②ごみ容器の揃え方・使い方：日本での調査の結果、日本では流しに1.5個、台所内に1.6個（流し以外）の厨芥用ごみ容器が用意されているのに比べてイギリスでは全家庭food waste用1つのみ、アメリカは3タイプに分かれるが台所に厨芥用ごみ容器を複数置いているのは少ない。用意されているごみ容器を容量に換算して比較すると日本の厨芥量の多さが伺える。またアメリカ、カナダ、イギリス共に屋外のごみ容器は複数用意しているのが特徴的で、リサイクル物品のストック用容器も用意されている③ごみ容器の位置：デイスポージャーの使用が多いアメリカではfood waste用容器はほとんどがシンク下に集中している。ドイツの例は集合住宅でごみ容器はシステムキッチンの中に配列されている。イギリスの場合は日本と同様調理場所周辺にやや散らばっている。